

環境省 環境技術実証事業 ヒートアイランド対策技術分野
 (建築物外皮による空調負荷低減等技術)
 ロゴマーク及び実証試験結果報告書についてのアンケート調査票

(財) 建材試験センター
 実証運営機関事務局

Q1. ヒートアイランド対策の技術に関して、あなたはどのような立場にいらっしゃいますか？
 (当てはまるものいずれかに、○を付けてください)

1. 建築材料・建築設備の開発者・製造者	2. 施工事業者
3. 購入者(施工依頼主)	4. 本事業の実証試験参加企業
5. 販売代理店	6. その他(下欄にご記入ください)

Q2. このウェブサイト(<http://www.env.go.jp/policy/etv/>) をご覧になったことがありますか？
 (当てはまるものいずれかに、○を付けてください)



1. ある	2. ない ⇒ Q5へ
-------	-------------

Q3. Q2のサイトは、環境省による環境技術実証事業のウェブサイトですが、A及びBの部分をクリックしてリンク先のページをご覧になったことがありますか？
 (当てはまるものいずれかに、○を付けてください)

1. Aのページのみ	2. Bのページのみ
3. A・B両方のページ	4. トップページのみ
5. その他()	

Q4.この環境技術実証事業のウェブサイトは、どのような理由でご覧になりましたか？
(当てはまるものに○を付けてください：複数回答可)

1.ウェブサイトを開覧（ネットサーフ）して	
2.ウェブカタログや紙のカタログに掲載のロゴマークのアドレスを見て	
3.報道発表をみて	4.実証試験結果報告書を見て
5.企業のWEBページからのリンクで	6.検索サイトで製品を検索して
7.環境技術メーカー又はその販売代理店の担当者からの情報で	
8.その他（下欄にご記入ください）	

Q5.環境技術実証事業のウェブサイトは、貴社にとって役立つものでしたでしょうか？

Aのページ 「実証試験結果報告書を掲載しているページ」
(当てはまる箇所に、○を付けてください)









役に立たなかった	どちらでもない			役に立った
1	2	3	4	5

Bのページ 「ヒートアイランド対策技術分野（建築物外皮による空調負荷低減等技術）についての説明ページ」
(当てはまる箇所に、○を付けてください)



役に立たなかった	どちらでもない			役に立った
1	2	3	4	5

Q6.これらのロゴマークを上記サイト以外でご覧になったことはありますか？
 (当てはまるものに○を付けてください：複数回答可)

 A (平成20年度以前)	 B (平成21年度)	 C (平成21年度)
 D (平成23年度)	 E (平成22年度)	 F (平成22年度)

1. ある ⇒ご覧になったマークの記号に○をつけてください	A B C D E F
2. どれもない ⇒ Q9へ	

Q7.Q6で「ある」と選らんだ方にお伺いします。どこでこれらのロゴマークをご覧になりましたか？
 (当てはまるものに○を付けてください：複数回答可)

1. 環境技術実証事業のウェブサイト 3. 販売代理店・施工事業者のウェブサイト 5. 商品の包装パッケージ 7. その他 (下欄にご記入ください)	2. 製品企業のウェブサイト 4. 商品カタログ 6. ホームセンター等のチラシ・ポスター
(Blank space for additional input)	

Q8.これらのロゴマークはどんな意味が御存知ですか？
 (当てはまるものいづれかに○を付けてください)

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

**Q9. 下記のような実証試験結果報告書をご覧になったことがありますか？
(当てはまるものいずれかに○を付けてください)**

例：平成22年度実証試験結果報告書 概要版（窓用日射遮蔽フィルム）

環境技術実証事業 ETV 環境省

高透射熱線反射・断熱フィルム「レフテック」ZC057
NI 有人商事株式会社

高透射熱線反射・断熱フィルム「レフテック」ZC057
NI 有人商事株式会社

実証試験結果報告書の著作権は、環境省に属します。

全体概要

実証対象技術／実証申請者	高透射熱線反射・断熱フィルム「レフテック」ZC057／NI 有人商事株式会社
実証機関	財団法人建材試験センター
実証試験期間	平成22年8月26日～平成23年2月4日

1. 実証対象技術の概要

高透射ポリステルフィルムにスパッタリング技術で銀系金属を薄膜精密製膜し、ナノレベル塗工技術により多層膜化し可視光線透過率を高めて選択光透過性としている。表面に特殊フィルムを使用して銀系金属の反射率を高く（吸収を少なく）し、表面放射率を低く（Low E化）した。Low E化により、室内外温度差による熱出入を低減できる。また、金属膜使用による微弱電磁波のシールド性能もある。

2. 実証試験の概要

2.1 空調負荷低減等性能

窓用日射遮蔽フィルムの熱・光学性能を測定し、その結果から、下記条件における対象建築物の全ての窓に窓用日射遮蔽フィルムを室内側に貼付した場合の効果（冷房負荷低減効果等）を数値計算により算出した。

2.1.1 数値計算における設定条件

(1) 対象建築物

- 住宅（戸建 RC 造）モデルの1階LD部（リビングダイニングスペース部）
【対象床面積：20.49㎡、窓面積：6.62㎡、階高：2.7m、構造：RC造】
- オフィスモデルの事務室南側部
【対象床面積：113.0㎡、窓面積：37.44㎡、階高：3.6m、構造：RC造】

注）周囲の建築物等の影響による日射の遮蔽は考慮しない。
対象建築物の詳細は、詳細版本編 4.2.2(1)対象建築物（詳細版本編 15ページ）参照。

(2) 使用気象データ
1990年代標準年気象データ（東京都及び大阪府）

(3) 空調機器設定

建築物	設定温度（℃）		稼働時間	冷房 COP	暖房 COP
	冷房	暖房			
住宅	26.6	21.0	6～9時・12～14時・16～22時	4.67	5.14
オフィス	26.7	21.9	平日 8～18時	3.55	3.90

(4) 電力量料金単価の設定

地域	建築物	標準契約種別	電力量料金単価（円/kWh）	
			夏季	その他季
東京	住宅	従量電灯 B		22.86
	オフィス	業務用電力 A	13.75	12.65
大阪	住宅	従量電灯 A		24.21
	オフィス	高圧電力 AS	12.08	11.06

2.2 環境負荷・維持管理等性能

耐熱試験により 1000 時間の促進耐熱性試験を行った。試験終了後、熱・光学性能の測定を行い、耐熱性試験前後における測定値の変化を確認した。

3. 実証試験結果

3.1 空調負荷低減等性能及び環境負荷・維持管理等性能

(1) 熱・光学性能及び環境負荷・維持管理等性能試験結果

【実証項目】

	耐熱性試験前	耐熱性試験後
遮へい係数 (—)	0.65	0.67
熱貫流率 (W/m ² ·K)	4.2	4.2

【測定項目（参考）】

	耐熱性試験前	耐熱性試験後
可視光線透過率 (%)	73.7	74.5
日射透過率 (%)	53.8	54.6
日射反射率 (%)	27.1	27.4

(2) 分光透過率・分光反射率（波長範囲：300nm～2500nm）の特性

図-1 分光透過率測定結果

図-2 分光反射率測定結果

1. 閲覧したことがある 2. 閲覧したことがない ⇒ Q11へ

**Q10. Q9で「閲覧したことがある」と選らんだ方にお伺いします。
(ア) 実証試験結果報告書のどの項目をご注目していますか？
(当てはまるものに○を付けてください：複数回答可)**

1. 実証試験の概要	1) 試験方法・数値計算の設定条件等
2. 熱・光学性能の実証試験結果	1) 遮へい係数
	2) 熱貫流率
	3) 日射透過率
	4) 日射反射率
	5) 明度
	6) 性能劣化の把握
	7) グラフ（分光分布、明度と日射反射率の関係）
3. 数値計算の結果	1) 冷房負荷低減効果
	2) 室温上昇抑制効果
	3) 屋根（屋上）表面温度低下量
	4) 参考項目（冷暖房負荷低減効果など）
4. メーカー（実証申請者）からの参考情報※	
5. その他（下欄にご記入ください）	

※実証試験に参加した企業が応募時に記載した事項で、実証の範囲ではない部分。

(イ) どのような目的で実証試験結果報告書をご覧になりましたか。

(当てはまるものに○を付けてください：複数回答可)

1. 技術の性能を確認するため	2. 同一種類の技術の性能を比較するため
3. 何が書かれているのかを確認するため	4. 試験方法を確認するため
5. その他（下欄にご記入ください）	

Q11. ロゴマークには、下記の意味がありますが、ロゴマークが付いた商品やロゴマークを取得した企業について、どのような印象をお持ちでしょうか？

(当てはまるものに○を付けてください：複数回答可)

これらロゴマークは、環境技術実証事業ロゴマークです。環境技術（製品）を製造・販売する企業（実証申請者）が、環境省が承認した第三者機関が実施する実証試験に参加し、その実証試験結果（測定結果・数値計算結果）が、結果の如何を問わず公表されていることを示しています。ここでいう実証試験の「実証」は、一定の判断基準を設けて、その基準に対する適合性を判定する「認証」「認定」「規格」と異なります。

ロゴマーク内部（平成20年度以前は近傍）に記載されている実証番号は、実証試験を実施した環境技術（製品）に個々に交付された固有の番号です。そして、ロゴマークが交付された環境技術（製品）の実証試験結果報告書は、環境技術実証事業ウェブサイトで閲覧できます。

1.	今後は、環境技術の商品を購入（仕入れもしくは採用）する際にロゴマークの有無を確認し、公表された性能について確認したい。
2.	ロゴマークが付いた商品がもっと増えて欲しい
3.	ロゴマークや環境技術実証事業のことを周りの人に教えたい。
4.	環境技術実証事業のウェブサイトをもっと良く見てみたい。
5.	実証試験結果報告書のデータを確認してみたい。
6.	自分がロゴマークの付いた商品を購入し使っていることをミニブログ（Twitter等）、ブログ、SNS（mixi, Facebook等）などに紹介したい。
7.	この事業で行う実証試験に参加しロゴマークを新たに取得したい。
8.	この事業について意見を提出したい。
9.	その他（下欄にご記入願います。）

Q12.この事業に関する意見・質問などございましたら、自由にご記入ください。

その他、詳細な内容のご質問等は、実証運営機関事務局〔建材試験センター・調査研究課 担当：村上（TEL：048-920-3814、E-mail：heat_23@jtccm.or.jp）〕までお願いいたします。

ご協力ありがとうございました。